

# 浜松市 教頭会 会報

## 第 41 号

発行 令和 元年 11 月 8 日  
編集 浜松市教頭会会報委員会

連絡先 TEL 053-433-2717 浜松市立中郡中学校 阪井小百合

## 新任校長随想

できることから、一つずつ ～「自分らしさ」を求めて～

浜松市立東小学校長 藤井 隆志

4月に、東小学校に着任して6か月が過ぎようとしています。

東小学校は、創立102年目の歴史と伝統ある学校です。アクト地区として再開発され、学区内の地番の多くが「中央区〇丁目」と変わりましたが、元来本校の学区だった旧10町の地域の皆様が、浜松まつりで大空に舞い上がる凧のように意気揚々と「おらが学校」として、いつも支えたり、引っ張ったりしてくださっています。この新しさと伝統が融合する素晴らしい環境の中で、子供たち、教職員ともに「やさしさ 元気 夢 いっぱい」の学校教育目標の実現に向けて、明るく元気よく日々を過ごす様子がうかがえます。

最近になって「もうだいぶ慣れたでしょう」と、よく声を掛けられます。校長職を拝命して半年足らず…周回コースのレースに例えたら、まだまだ1周目の半ば辺り、行く先は、薄ぼんやりとしか見えない霧の中という状態ですから、とても「はい」とは答えることはできません。また、運動会や1年生を迎える会等、これまで当たり前に関わってきた活動や行事と向き合う折りにも、一つ一つの出来事をどう捉えて、誰に、何を、どんな形で発信していくべきなのか…それが、今までとは少し違うのだということを感じ、「何が正解なのか」「この道を進んで本当に良かったのか」などと、迷う場面ばかりです。

私は、教員生活2年目に、学年主任の先生から次の言葉をいただきました。

あなたが、これから「先生」として勤めていく中で、多くの先生方と出会い、一緒に仕事をしていくことになるでしょう。様々なタイプや考え方の先生がいる中から「この先生のようにになりたい」という人を見つけなさい。その人を目標にして、頑張っていけば良いのだけれど…ただ、決してその人と全く同じようにはできない。だから、その人を追って走る中で「自分らしさ」をつかみ、それを磨いていきなさい。

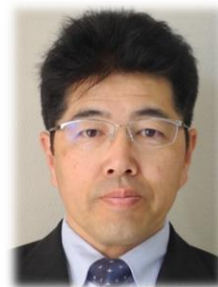
「自分らしさ」。これは、これまで教員生活を送る中で、常に探り続けてきた課題です。そして、自分自身の取り組みを振り返る際に、時には「励み」となり、またある時には「戒め」となって、現在もなお「教師としての私」を突き動かしてくれる言葉です。

教育の流れが、大きく変わろうとしている今「自分は何をすれば良いのか」と、悩むことばかりです。いくら頭を捻っても、なかなかよい考えは浮かびません。そこで、悩むよりも「できることから、始めよう」と、心に決めました。子供たちや教職員、保護者、地域のために「良いと思うこと」「楽しさにつながると思われること」を、教頭先生をはじめ教職員の皆さんと相談しながら、一つずつ形にしていけたらと考えています。これまでと同様に、様々な面で御指導くださる各校の校長先生をはじめ、私に関わる多くの先生方のよい面を「教え」として、現職においても「自分らしさ」を求めて精進したいと思います。



## 地域の思いに寄り添いながら

浜松市立春野中学校 鈴木 靖



春野中の朝は7時半過ぎにやってくる7台のスクールバスから始まります。ほとんどの教員が昇降口前でスクールバスを出迎え、朝のあいさつを交わします。天竜区での勤務が初めての私には、新鮮な光景でした。

本校は、浜松市が広域に市町村合併した年に、春野南中、春野東中、気多中が統合され、開校しました。そのため、東西18.6km、南北22.7kmに及ぶ広い学区をもつこととなり、生徒の7割以上がスクールバスで登下校をしています。学区の92%が山林で、谷間を縫うように清流が幾筋も流れ、四季折々の表情を見せてくれます。学区内には、旧石器時代から近代に至るまでの遺跡が点在しています。本校敷地内にある煉瓦造りの講堂は明治・大正期に操業されていた旧王子製紙気田工場の施設で、県の有形文化財にも指定されています。また、「レビューの王様」と称せられた、春野町出身の白井鐵造氏の御縁で始まった、宝塚歌劇団と交流する修学旅行は、地域の方々の御厚意で今もなお続いています。このように本校は、豊かな自然と文化に恵まれ、地域の方々に温かな御支援をいただいている学校です。私が赴任して間もないころ、天竜区に長く勤務されていた先輩の校長先生から「まず学区を知って、事に当たるように」との助言をいただきました。そこで、私は、帰宅途中に春野町内を巡るようにしました。森林と沢に挟まれた山道を車で走り、主な道路や生徒の育ってきた地域を確認したり、地域の方々に話を聞かせていただいたりしました。時には、車の前に悠然と歩み寄る、猪や鹿に出会い、畏敬の念を抱きつつ、それらを見送ることもありました。地域に足を踏み入れたことによって、地域への愛着が一段と深まり、生徒や保護者、地域の方々との距離が少し近くなりました。また、生徒への理解も深まり、教職員に対する適切な指導に繋げることもできました。教頭時代にも学区内の祭典補導、回覧文書の依頼等で地域に出向くことはありましたが、校長として地域に向き合う姿勢や意識とは違いがあると感じています。今後、天竜区での勤務が、自分の経験の幅を広げ、校長としての判断力を高めてくれると考えています。

本校では、現在、「地域に元気を運ぶ春中生」を合い言葉とし、地域とのかかわりを意識した教育活動に取り組み、生徒の様子を積極的に地域に発信するように努めています。しかし、学区内の過疎化、少子高齢化は進んでおり、生徒数は開校当時の3分の1ほどになっています。帰宅途中に巡った地域には「校長先生、わざわざ来ていただいたが、わたらの集落には子供が一人もいない。昔は集落ごとに小学校があって、近所に子供らもいたんだが。」と話される方が何人もおられ、「地域に元気を運ぶ春中生」が本校の大切な使命であると感じると同時に、難しい課題であることを再認識しています。

間もなく、赴任して半年が過ぎようとしています。自分が校長として務められているのは、春野に居住し、本校を実直に支えてくれている教頭先生のお陰と感謝しています。仕事が山積みになっているにもかかわらず、校長に対してだけでなく、教諭、講師、事務員、支援員、用務員など、いろいろな立場の教職員に気を配り、公私にわたっての相談に乗り、温かな言葉をかけ、安心して働ける職場を作ってくれています。また、校長の思いを職員室での何気ない会話や職員日より「春野舎報」の記事を通してわかりやすく伝え、教職員のベクトルを合わせ、課題に向き合う雰囲気醸成してくれています。改めて、学校における教頭先生方の存在の大きさを感じます。学校の規模や校種によらず、教頭は、量的にも、質的にも手間がかかる仕事を多く抱えています。それらは、生徒や保護者、一般教職員には見えにくい縁の下の仕事ですが、生徒や教職員の安全や安心を支え、学校を成り立たせています。働き方改革が叫ばれる中であっても、教頭先生方に掛かる負担はなかなか軽減できていないのが現状です。心身の調子と相談し、校長に少し愚痴をこぼしつつ、それぞれの良さを生かして御活躍ください。よろしくお祈りします。



春野中講堂（旧王子製紙気田工場内施設）

# 特集

## 教職員人事評価（面談Ⅱ）について

～ 面談は「意欲向上」「組織活性」の貴重なチャンス！ ～

浜松市教育委員会 教職員課 竹内孝夫

令和元年度、新たな教職員人事評価がスタートし、各校で順調に実施されていることに感謝申し上げます。教頭の皆様におかれましては、面談の日程調整、1次評価者としての判断等、御苦勞もあつたかと思ひます。

本年度の後期職務評価は、「給与反映の基礎」として活用されることとなります。開示では、本人が納得できる丁寧な説明をお願いします。教職員の育成につなげるために、面談前に被評価者へ伝える内容について、校長とよく打ち合わせておくことが大切です。事前に被評価者にも流れを伝えておく落ち着いた面談になります。

### 《 面談Ⅱの例 》

#### 1 準備物

① 被評価者が管理職に提出した自己評価が入ったシート

※ 本人にシートを用意してもらうことで、事前に話したい内容を整理または準備できると思ひます。

② 2次評価まで記入してある評価シート（校長）

#### 2 進行

① 本人による自己評価の説明 「自己目標シート」使用

- ・ 自己評価の理由、達成度の確認、次年度への課題 等

② 本人による自己評価の説明「前期職務シート」「後期職務シート」使用

③ 開示

- ・ 教頭による1次評価の説明
- ・ 校長による2次評価の説明

④ 次年度へ向けた助言（本人の抱負含む）

これはあくまでも一例です。準備物①のようなシートは用意せず、いきなり開示から入り、評価を伝えてからゆっくり本人の反省と次年度への課題に入っていく方法もあります。

面談Ⅱで、次年度の分掌希望や、校内で気になっていることなどを聞きたいと考えている校長先生もいます。十分に打合せを！



# 新任教頭随想



『徹底した子供理解』を基調にした学校づくり」

浜松市立葵西小学校 松山 徹



新年度が始まり、児童昇降口で子供たちが登校する姿を見えています。毎朝、教師とじゃんけんをすることを楽しみにしている子、虫かごを大事そうに持ってくる子、外遊びをしようと教室からボールを持ってきたものの昨夜の雨でぬかるんだ運動場をうらめしそうに眺めている子など、子供たち一人一人の学校に来る思いが違うことに気付きます。先日は、児童昇降口前にある、金属製の格子の溝ふたがされた側溝に落としてしまった赤青鉛筆を、どうやって拾い出そうかと、何人もの子供たちが集まり、様々なアイデアを出し合う姿が見られました。

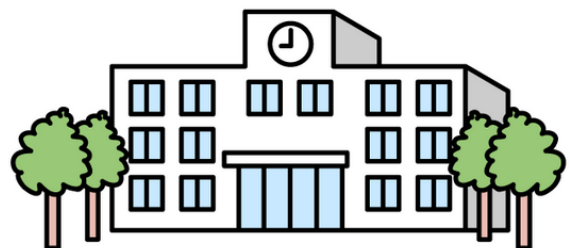
子供たちが登校する思いは様々で、それでも、頑張っている学校に来ているのが本音ではないかと思えます。口にこそ出さないけれども、学校に来ることは決して当たり前のことではない。これを私たち教師は心に留めておく必要があると感じました。

葵西小の学校経営は「徹底した子供理解」を基調に進めています。子供たちが「学校に来て良かった」と心から思える学校にするためにはどのようにしたらよいかを、皆が常に考えています。

自ら考える授業とはどんな授業なのか。基礎・基本が身に付く授業とはどんな授業なのか。10連休や夏休みが終わって、早く学校に行きたい、友達に会いたいと思える学校とはどんな学校なのか。今日、学校へ来たおかげで、分からないことが分かるようになった。二重跳びができるようになった。友達とこんな楽しいことがあった。先生がこんな面白い話を聞かせてくれたなどと、成長や満足のお土産を持って帰れる学校ならば「今日、学校が楽しかった」となるのでしょうか。

私にとって本年度は、葵西小一年目、教頭一年目ですので、「つかむ」段階だと思えます。そこで、一つ目は、葵西（保護者・地域）のよさや課題をつかみます。二つ目は、職員や子供の長所や弱さをつかみます。三つ目は、学校経営について、校長先生から多くの御指導をいただき、職員の皆さんと力を合わせて、「しなやかな子」の育成を重点とした学校経営への思いや手順・方法等をつかみます。自分ならどう判断するのかを、自己点検・評価することで、自身の成長につなげていきたいと思えます。

特に、一人一人の職員が、経営方針を受け止め、自発的に行動できる組織づくりを、また、若手育成を主とした人材育成について、力を入れていきたいと思えます。



## 「楽しみながら」

### 三ヶ日西小学校 高須祥郎



平成23・24年度の2年間、長期研修として教職大学院へ通う機会をいただいた。個人研究に向かう時間が多くを占めたのだが、院生とともにさまざまな講義・演習を通して学ぶことも数多くあった。そうした演習の1つに「夢の学校づくり・学校改善への実践論」なる授業があった。具体的には、「学校改善に向け、ミドルリーダーの立場から何ができるのか」を提案・協議する時間である。私は「教員の学び合い」をテーマに「少しでも前向きになれる校内研修」について文章を綴った。その中では、次のような提案をしていた。

管理職のプレゼンで組織を活性化させていただきたい。年間2回。1回目は、1学期の様子を肯定的にとらえられるように夏期研修にて実施。題して「\*\*のA中に乾杯」。担当は教頭先生。  
2回目は、来年度に向けて教育課程編成前に実施。題して「ALWAYS A中の夕日」。こちらは、満を持して校長先生が担当。職員の姿から見取ったよさを、立場のある方が語ってくだされば、きっと先生方は前向きに成長を求めるはずだ。(後略)

派遣終了から7年。……「あれ？俺、教頭になってるな」。

夏季校内研修の計画が話題に上がった頃、数年前の学びを思い出してしまった私。そして、管理職にやってほしかったことを実践しようと決意し、行動を起こした。  
まずは、全校児童にアンケートやインタビューを実施し、子供たちが感じている“よさ”を集めた。「授業や日々のかかわりの中で、ここが好きだな。2学期も続けてほしいな…」ということをお教えしてくれ」と投げかけて。その後、集まった子供の声をパワポにてまとめていく。先生方に気付かれては盛り上がり欠けるので、作業は極秘裏に。  
以下は、その実際を部分抜粋したものである。

協調学習、先行学習等々。  
“アクティブ”に“ラーニング”するためにいろいろな教授方法が採り上げられるが、「これが絶対！」  
…なんてものは無い。

指導方法が最初にあるのではなく、  
子供と授業者の関係性において指導方法が決まるのだ(たぶん)。

西小の子供たちと先生方の関係性は、大いに胸を張ってよいと思っています

先生の授業(ふるまい)ここが好き！

～子供の声を拾ってみました～

希美先生、ここが好き！  
☆自主勉や書き取りのイイやつを後ろに貼ってくれる  
☆話を聞いてくれる  
☆いつでも優しく接してくれる  
☆まれミスアを続けてね  
☆困り事を解決してくれる など

「魅力的な先生」  
これ以上に、教育効果を高めてくれるものはありません。  
1学期間、本当にありがとうございました。そして、2学期もよろしくお願いします。

三ヶ日西小に乾杯



管理職を除く全教職員を紹介した夏季研修の場。先生方は喜んでくれていた。私自身が教室や部活動の場で子供たちと関わる機会は減ってしまったが、良い意味でこの立場を楽しみ、最前線で子供たちと関わっている先生方を支え、共に成長できる教頭でありたいと思う。

## 風になりたい

引佐北部小中学校 河合 司



「風、疎竹（そちく）に来る。風過ぎて竹に声を留めず。」  
（まばらな竹林に一陣の風が吹きつけて、竹はざわざわと騒ぎ立つ。  
しかし、風がやめば、再び静まり返って何の物音も発しない。）  
与えられた時間、空間の中で、仲間と心を合わせて精一杯「風」になる。  
思いを残さずに吹き抜けていく。

年度当初、新年度の船出として校長先生から職員に紹介して下さった言葉です。

私は、教頭として、本校学校経営方針具現化に向け、状況に応じた様々な風を吹かせたいと考えました。

施設一体型小中一貫校である本校には、単独校であれば必要のない苦勞もあります。意見が合わず、衝突することも予想されます。どの職員に対しても謙虚、敬意を忘れず、有意義な議論が展開され、合意形成できるような風を吹かせたいと思います。また、それぞれの職員の良さ、強みを生かした職員集団となるために、メリハリある自分らしい風を吹かせたいとも考えています。

そのためにも、校長先生から「教頭に期待すること」としていただいた4つのキーワードである「情熱」「育成観」「補佐」「原則」を常に意識して行動し、形にしていきたいと考え、職員室に明るい笑顔の花が常に咲いていられるよう日々を過ごしています。

しかし、現状は、日々の業務に追われ、自分にゆとりがなく、周りに多々迷惑をかけている状態です。その活動が何のために、どの法令を根拠として行われているのかが十分理解できずに曖昧な対応をしてしまうことが多く、危機管理対応も不十分で、正しい方向に風を吹かせるための力をつけていかなくてはいけないと改めて痛感しています。

令和元年度の折り返しとなった今、こうして初心に戻る機会を与えていただいただけに、今一度自分を見つめ直し、失敗を原動力として自分らしい新たな風を吹かせます。

2学期になり、校長先生からいただいた新たなキーワード「マネジメント」「最初の準備と最後の確認」「報連相」を忘れず、以下の歌詞をいつも心に響かせて頑張（顔晴）ります。

♪大きな帆を立てて あなたの手を引いて 荒れ狂う波にもまれ 今すぐ風になりたい  
天国じゃなくても 楽園じゃなくても あなたに会えた幸せ 感じて風になりたい♪

～体は重いが、心は風のように軽やかに～すべては子供の笑顔のために～